

当院糖尿病代謝内科 部長 調医師が、去る9月27日から10月3日に開催された  
第45回ヨーロッパ糖尿病学会（ウィーン、オーストリア）に参加、ついに国際デビュー  
しました。 その時の様子を調医師よりご報告いただきました。



旅行中、まず気になったのは新型インフルエンザの影響ですが、空港でも機内でも、ウィーンの街中でもほとんど気にかけている様子はありませんでした。もちろん機内ではノドが乾燥しないように(?)小まめに水分(ワインやビール!)をとるよう心掛けました。更に機内では時々ノドにシュッと吹きかける市販の消毒薬を使い予防に努めました。

また、今回はインスリン注射器と注射針を手荷物に入れ、空港等でトラブルがないかを試しました。米国のテロ事件以来、機内に液体や尖ったものを持ち込むのはとてもチェックが厳重です。成田空港でチェックイン時に「手荷物に液体や刃物などはありませんか？」と聞かれました。「インスリンと注射針を持っています」と答えましたが、「恐れ入りますが、注射はトイレでお願いします」と言われただけでした。手荷物検査時もカバンから出し係員にインスリンであることを告げましたが、ほとんど無視されるくらい問題なく通過しました。帰りのウィーン空港でも同様で、手荷物チェック時にも何も指摘されませんでした。

フライトは約11時間でしたが、機内では1回のスナック菓子と2回の比較的高カロリーの食事が出ました。また何度もジュースやアルコール類は要りませんかと、にこやかに添乗員さんがサービスしてくれます。私は調子に乗って往復共、ワインを3杯、ビール(350ml)を2本いただいてしまいましたが、糖尿病の方は要注意ですよ。



(写真1)

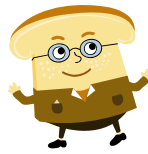


ウィーンについたのは現地時間で午後4時(日本時間で23時)。バスでホテルに行き、一休みしてから、さあ！活動開始。実は僕、音楽大好きなんです。日本で予約したモーツァルトにゆかりのある修道院で弦楽四重奏を聴きました。ところが、演奏会は

(写真 2)



日本時間の午前 2 時から 4 時頃です。睡魔と必死で闘いながらのコンサートでした。そのほか、有名なオペラ座でドン・カルロ（ウェルディ）を観たり、楽友協会の黄金の間でモーツァルト時代のカツラを被ったオーケストラを聴いたり、マリオネット人形を操りながらのオペラ魔笛（モーツァルト）を観たりしました。ヴェーナー・ヴェンやシューベルト、ブラームスのお墓参り(写真 2)もしてきて“音楽の都ウィーン”を堪能しました。



旅行中は食事も普段と違いますので、注意が必要です。今回の旅行は、朝食はホテルのバイキング（パンとチーズとウィンナー中心）、く美味しくないサンドウィッチで済ませました。

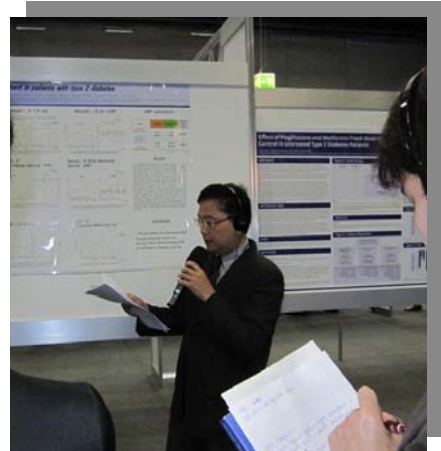
昼はほとんど学会場で配られる恐ろし

夕食は毎夜のようにコンサートに出掛けたので、時間もなく街角の屋台のホットドックやピザ (with wine!) がほとんど。せっかくの海外旅行ですが、今回は全く“食”にはこだわらなかったのでそれほどカロリーオーバーにはならず済みました。それどころか、滞在中の平均歩数は **18,000 歩** と日常生活の約 2 倍！！旅行後にありがちな体重増加もありませんでした。

もちろん、お勉強もしてきました。まずは、学会発表。**チアゾリジン誘導体とアルファグルコシダーゼ阻害薬という 2 種類の薬剤の心臓に対する影響を発表しました。当研究は 8 つの病院と共同で、約 3 年かけて行ったものです。シドロモドロの英語での発表でしたが、なんとか無事に終えることができました。偶然に会った大学の後輩医師が、発表ポスター前で撮ってくれた証拠写真(写真3)を見てください。**

その他、本学会では日本で新しく発売されるは DPP-4 阻害薬という薬に関する事などをしっかりと聞いてきました。

今年は糖尿病代謝内科の医師 4 人で 9 回の学会発表をしました。来年も一所懸命勉強して、また、学会にチャレンジしたいと思います。



(写真 3)

**調先生、大変お疲れ様でした。**